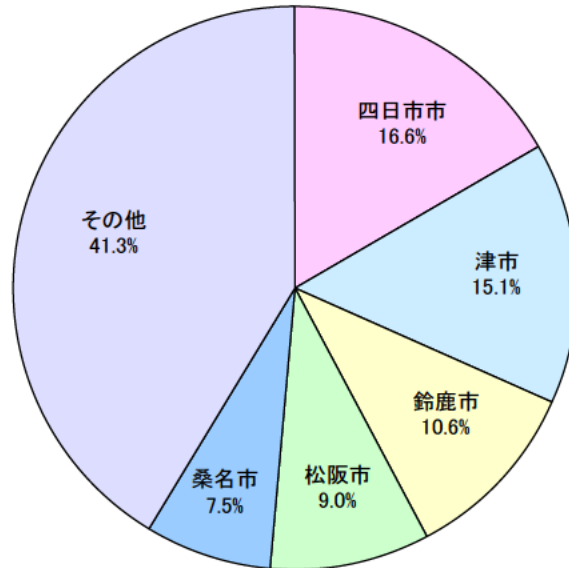


単位：人

市 町 名	平成17年	順位
四日市市	153,008	1
津市	138,918	2
鈴鹿市	97,777	3
松阪市	83,282	4
桑名市	68,850	5
伊勢市	65,647	6
伊賀市	49,996	7
名張市	39,434	8
志摩市	28,234	9
亀山市	25,640	10
いなべ市	24,396	11
菰野町	19,086	12
東員町	13,735	13
鳥羽市	11,974	14
明和町	11,653	15
尾鷲市	10,105	16
紀北町	9,009	17
熊野市	8,891	18
多気町	8,423	19
玉城町	7,756	20
南伊勢町	7,498	21
川越町	6,621	22
紀宝町	5,591	23
大台町	5,309	24
大紀町	4,994	25
御浜町	4,807	26
度会町	4,555	27
木曾岬町	4,031	28
朝日町	3,402	29
三重県	922,622	
全 国	61,506 千人	

## ● 市町別就業者数(常住地:総数)の割合



平成17年の県内の市町別就業者数をみると、四日市市が15万3千人と最も多く、県全体の16.6%を占めています。次いで10市町村が合併した津市の13万9千人(同15.1%)となっています。上位5市で、県全体の約6割を占めています。

## ● グラフデータ

	単位：人、%	
	H17年	割合
四日市市	153,008	16.6
津市	138,918	15.1
鈴鹿市	97,777	10.6
松阪市	83,282	9.0
桑名市	68,850	7.5
その他	380,787	41.3

## 【資料出所】

総務省「国勢調査報告」

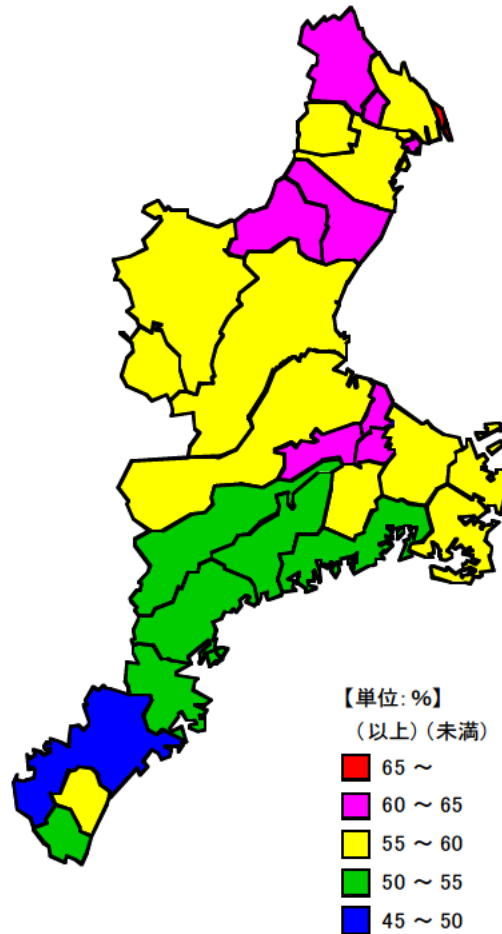
## 【備考】

就業者(常住地:総数)とは、同一の市町に居住した期間、又は居住しようとする期間が3カ月以上にわたる者のうち、調査期間(平成17年9月24日～30日)中に、賃金、給与、諸手当、営業収益、手数料、内職収入などの収入(現物収入を含む。)になる仕事を少しでもした人のほか、休業者も含む。

単位：%

市 町 名	平成17年	順位
木曾岬町	66.5	1
玉城町	62.5	2
いなべ市	61.6	3
川越町	61.3	4
東員町	61.1	5
多気町	60.8	6
亀山市	60.5	7
明和町	60.5	8
鈴鹿市	60.2	9
鳥羽市	59.8	10
四日市市	59.6	11
度会町	58.6	12
桑名市	58.6	13
菰野町	58.4	14
伊賀市	57.2	15
松阪市	57.2	16
朝日町	57.0	17
御浜町	56.5	18
伊勢市	56.4	19
津市	56.0	20
名張市	55.9	21
志摩市	55.8	22
大台町	54.1	23
大紀町	52.0	24
紀宝町	52.0	25
尾鷲市	51.7	26
紀北町	51.1	27
南伊勢町	50.4	28
熊野市	47.3	29
三重県	57.7	
全 国	56.0	

## ● 市町別就業率



平成17年の就業率は、県平均では57.7%となっています。県内市町の中で最も高いのは木曾岬町の66.5%で、最も低いのは熊野市の47.3%となっています。

全般的に県北部が高く、南部が低い傾向が見てとれます。

## 【資料出所】

総務省「国勢調査報告」

## 【算出方法】

就業者÷15歳以上人口×100（常住市町内数）

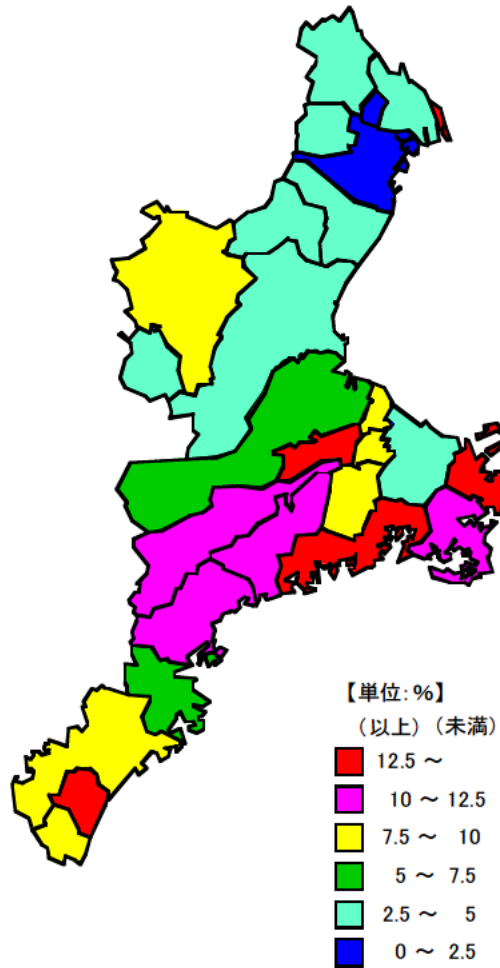
## 【備考】

ここでいう就業率は、同一市町内に3ヶ月以上居住等をしている15歳以上の者のうち、調査期間中（平成17年9月24日～30日）に就業による収入がある者（休業者を含む）の割合のことである。

単位：%

## ● 市町別第1次産業就業者比率

市町名	平成17年	順位
御浜町	28.1	1
南伊勢町	23.7	2
鳥羽市	14.9	3
多気町	13.1	4
木曾岬町	12.8	5
志摩市	12.1	6
大紀町	12.0	7
紀北町	11.0	8
大台町	10.0	9
玉城町	9.8	10
紀宝町	8.6	11
明和町	8.6	12
度会町	8.5	13
熊野市	8.2	14
伊賀市	7.5	15
尾鷲市	6.9	16
松阪市	5.3	17
津市	4.0	18
亀山市	3.9	19
鈴鹿市	3.9	20
伊勢市	3.7	21
いなべ市	3.3	22
菰野町	3.0	23
桑名市	2.9	24
名張市	2.8	25
四日市市	2.0	26
朝日町	2.0	27
川越町	1.6	28
東員町	1.3	29
三重県	4.9	
全国	4.8	



平成17年の第1次産業就業者比率の県平均は4.9%となっています。県内市町の中で最も高いのは御浜町の28.1%で、最も低いのは東員町の1.3%となっています。

木曾岬町を除いた県北部で低く、県南部で高い傾向にあります。

## 【資料出所】

総務省「国勢調査報告」

## 【算出方法】

第1次産業就業者÷全産業就業者×100

## 【備考】

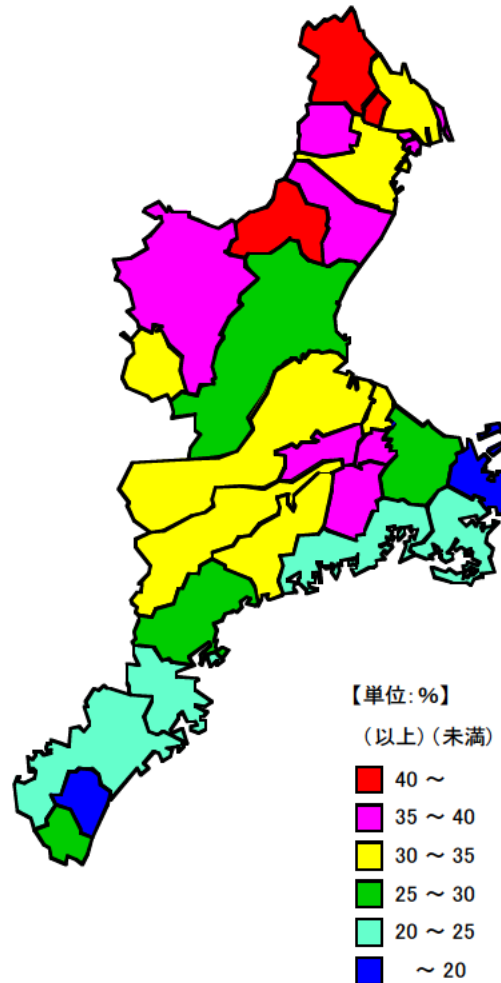
就業者とは、調査期間（平成17年9月24日～30日）中に、賃金、給与、諸手当、営業収益、手数料、内職収入などの収入（現物収入を含む。）になる仕事を少しでもした人のほか、休業者も含む。

全産業就業者には、分類不能の産業の就業者を含む。

単位：%

市町名	平成17年	順位
いなべ市	45.6	1
亀山市	41.9	2
東員町	40.1	3
度会町	39.0	4
菰野町	38.8	5
伊賀市	38.5	6
川越町	38.5	7
朝日町	38.1	8
鈴鹿市	38.1	9
木曽岬町	37.1	10
多気町	36.8	11
玉城町	36.5	12
桑名市	34.4	13
明和町	34.2	14
四日市市	34.2	15
大紀町	33.8	16
名張市	33.3	17
大台町	33.1	18
松阪市	32.7	19
紀北町	29.6	20
伊勢市	29.5	21
紀宝町	29.0	22
津市	28.1	23
南伊勢町	23.7	24
志摩市	22.8	25
尾鷲市	22.2	26
熊野市	20.6	27
鳥羽市	17.7	28
御浜町	15.8	29
三重県	33.2	
全国	26.1	

## ● 市町別第2次産業就業者比率



平成17年の第2次産業就業者比率の県平均は33.2%となっています。県内市町の中で最も高いのは、いなべ市の45.6%で、最も低いのは御浜町の15.8%となっています。

全般に県北部が高く、県南部が低い傾向にあり、特に、新しい工業団地等の整備が進んでいるいなべ市、亀山市の数値が高くなっています。

## 【資料出所】

総務省「国勢調査報告」

## 【算出方法】

第2次産業就業者÷全産業就業者×100

## 【備考】

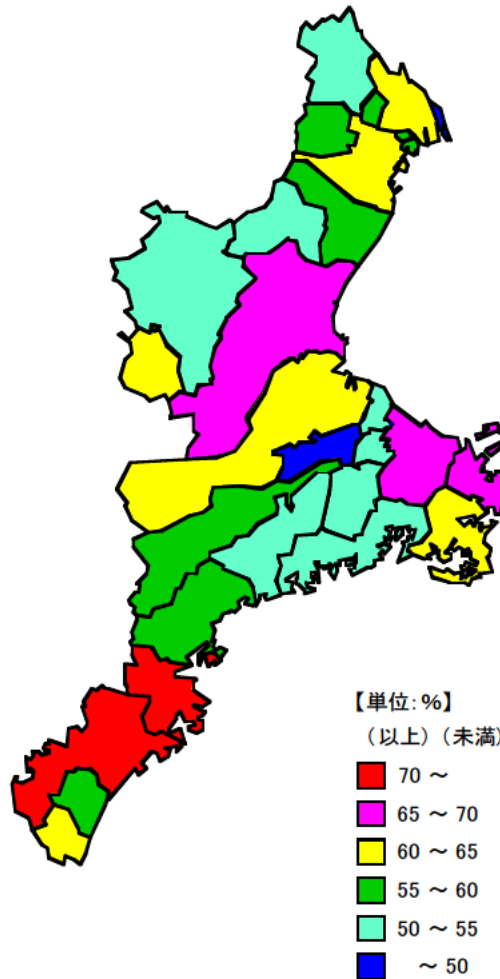
就業者とは、調査期間(平成17年9月24日～30日)中に、賃金、給与、諸手当、営業収益、手数料、内職収入などの収入(現物収入を含む。)になる仕事を少しでもした人のほか、休業者も含む。

全産業就業者には、分類不能の産業の就業者を含む。

単位：%

市 町 名	平成17年	順位
熊 野 市	70.9	1
尾 鷲 市	70.8	2
津 市	66.3	3
鳥 羽 市	65.7	4
伊 勢 市	65.7	5
志 摩 市	64.7	6
名 張 市	63.0	7
紀 宝 町	62.2	8
桑 名 市	61.2	9
松 阪 市	61.2	10
四 日 市 市	61.2	11
川 越 町	59.6	12
朝 日 町	59.1	13
紀 北 町	58.9	14
菰 野 町	57.3	15
東 員 町	56.8	16
大 台 町	56.7	17
御 浜 町	55.8	18
鈴 鹿 市	55.5	19
明 和 町	54.9	20
大 紀 町	54.1	21
伊 賀 市	53.1	22
玉 城 町	52.7	23
亀 山 市	52.2	24
度 会 町	52.1	25
南 伊 勢 町	51.9	26
いなべ市	50.1	27
木 曽 岬 町	49.7	28
多 気 町	49.6	29
三 重 県	60.4	
全 国	67.2	

## ● 市町別第3次産業就業者比率



平成17年の第3次産業就業者比率は、県平均では60.4%となっています。県内市町の中で最も高いのは熊野市の70.9%で、最も低いのは多気町の49.6%となっています。

## 【資料出所】

総務省「国勢調査報告」

## 【算出方法】

第3次産業就業者 ÷ 全産業就業者 × 100

## 【備考】

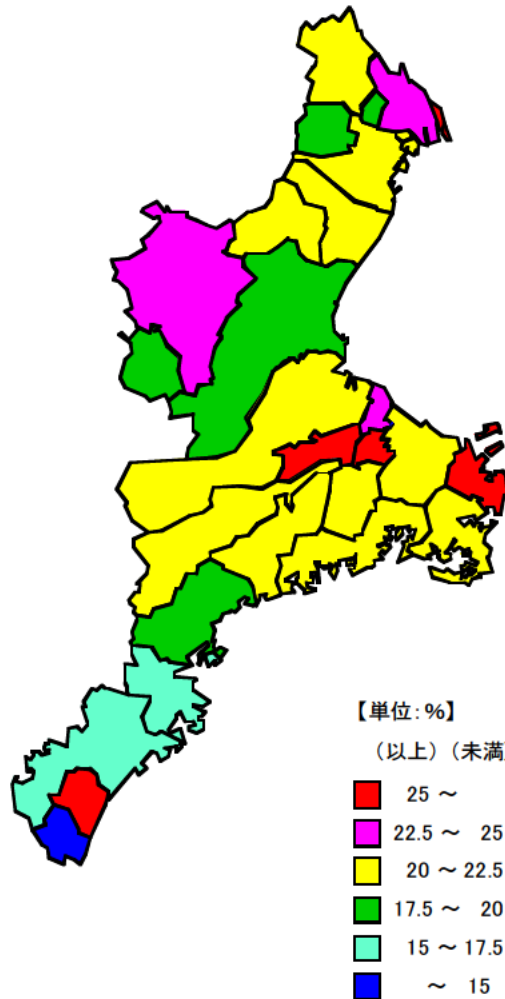
就業者とは、調査期間（平成17年9月24日～30日）中に、賃金、給与、諸手当、営業収益、手数料、内職収入などの収入（現物収入を含む。）になる仕事を少しでもした人のほか、休業者も含む。

全産業就業者には、分類不能の産業の就業者を含む。

単位：%

## ● 市町別高齢者就業率

市町名	平成17年	順位
木曾岬町	32.4	1
御浜町	31.5	2
多気町	28.5	3
玉城町	27.4	4
鳥羽市	26.2	5
明和町	24.4	6
伊賀市	23.1	7
桑名市	22.5	8
亀山市	21.8	9
川越町	21.7	10
松阪市	21.7	11
大台町	21.5	12
四日市市	21.5	13
南伊勢町	21.4	14
鈴鹿市	21.2	15
志摩市	20.8	16
いなべ市	20.5	17
朝日町	20.4	18
度会町	20.1	19
伊勢市	20.0	20
大紀町	20.0	21
津市	19.9	22
東員町	18.3	23
菰野町	18.2	24
名張市	17.9	25
紀北町	17.7	26
熊野市	16.7	27
尾鷲市	16.2	28
紀宝町	14.3	29
三重県	21.0	
全国	21.1	



平成17年の高齢者就業率は、県平均では21.0%となっています。

県内市町の中で就業率が25%を越えているのは、木曾岬町、御浜町、多気町、玉城町、鳥羽市の5市町となっています。

一方、17.5%を下回るのは、紀宝町、尾鷲市、熊野市の3市町となっています。

## 【資料出所】

総務省「国勢調査報告」

## 【算出方法】

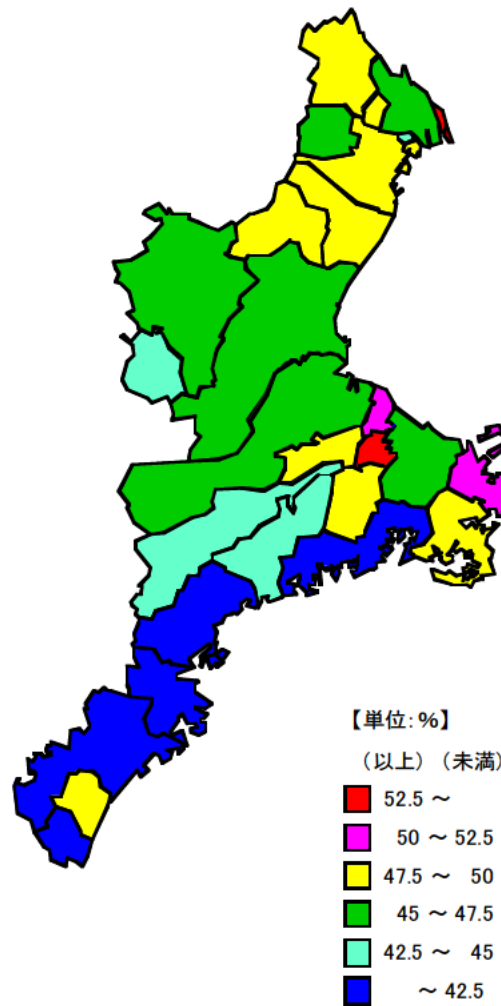
就業者(65歳以上)÷65歳以上人口×100

## 【備考】

就業者とは、調査期間(平成17年9月24日~30日)中に、賃金、給与、諸手当、営業収益、手数料、内職収入などの収入(現物収入を含む。)になる仕事を少しでもした人のほか、休業者も含む。

## ● 市町別女性就業率

市 町 名	単位：%	
	平成17年	順位
木曾岬町	57.4	1
玉城町	53.0	2
鳥羽市	51.3	3
明和町	51.2	4
いなべ市	49.7	5
東員町	49.4	6
亀山市	48.8	7
鈴鹿市	48.6	8
度会町	48.6	9
多気町	48.6	10
志摩市	48.2	11
川越町	48.2	12
四日市市	47.9	13
御浜町	47.8	14
伊勢市	47.4	15
松阪市	47.3	16
菰野町	47.3	17
桑名市	46.9	18
伊賀市	46.4	19
津市	45.8	20
名張市	44.9	21
大台町	44.3	22
朝日町	43.8	23
大紀町	42.8	24
紀宝町	41.8	25
尾鷲市	41.7	26
紀北町	41.0	27
熊野市	40.7	28
南伊勢町	40.0	29
三重県	47.1	
全 国	45.5	



平成17年の女性就業率は、県平均では47.1%となっています。

県内市町の中で就業率が50.0%を超えているのは、木曾岬町、玉城町、鳥羽市、明和町の4市町となります。

一方、南伊勢町、熊野市、紀北町、尾鷲市、紀宝町の5市町では、42.5%未満となっています。

## 【資料出所】

総務省「国勢調査報告」

## 【算出方法】

就業者(女性)÷15歳以上人口(女性)×100

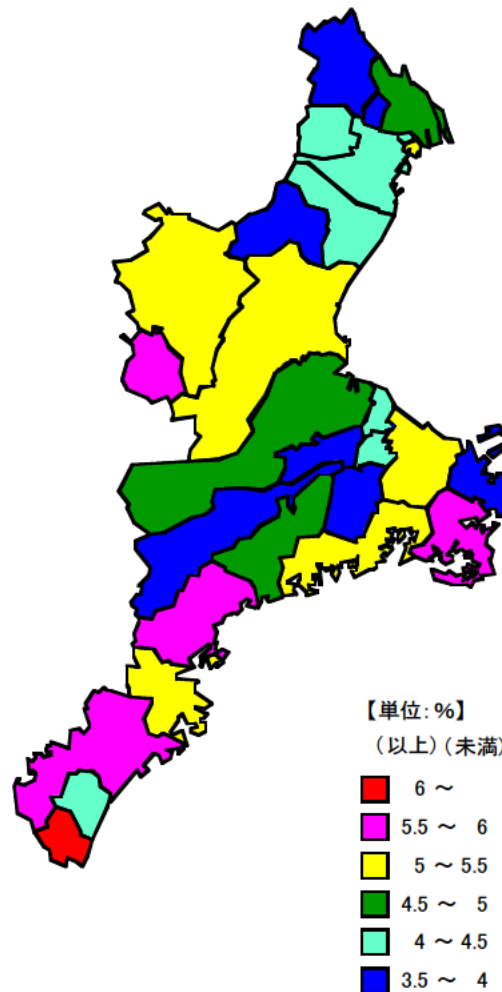
## 【備考】

就業者とは、調査期間(平成17年9月24日~30日)中に、賃金、給与、諸手当、営業収益、手数料、内職収入などの収入(現物収入を含む。)になる仕事を少しでもした人のほか、休業者も含む。

単位：%

## ● 市町別完全失業率

市町名	平成17年	順位
紀宝町	6.2	1
志摩市	5.7	2
熊野市	5.7	3
名張市	5.6	4
紀北町	5.6	5
尾鷲市	5.4	6
津市	5.4	7
伊勢市	5.3	8
川越町	5.2	9
南伊勢町	5.1	10
伊賀市	5.0	11
松阪市	4.9	12
木曾岬町	4.7	13
大紀町	4.5	14
桑名市	4.5	15
菰野町	4.4	16
明和町	4.3	17
四日市市	4.3	18
朝日町	4.2	19
鈴鹿市	4.2	20
御浜町	4.2	21
玉城町	4.1	22
亀山市	3.9	23
東員町	3.9	24
多気町	3.8	25
大台町	3.8	26
度会町	3.7	27
いなべ市	3.5	28
鳥羽市	3.5	29
三重県	4.7	
全国	6.0	



平成17年の完全失業率は、県平均では4.7%となっており、県内市町の中で最も高いのは紀宝町の6.2%で、最も低いのは鳥羽市の3.5%となっています。

## 【資料出所】

総務省「国勢調査報告」

## 【算出方法】

完全失業者÷労働力人口×100

## 【備考】

完全失業者とは、調査期間（平成17年9月24日～30日）中に収入になる仕事を少しもしなかった人のうち、仕事に就くことが可能であって、かつ、積極的に仕事を探していた人をいう。

労働力人口とは、就業者と完全失業者の合計をいう。